

始めに夢ありき ～ 心の自由と経営

5月17日のご講演に参加くださいました皆様への心からのお礼

自灯明、托鉢、瞑想

皆様、このたびは「講演というよりは創造のエネルギーを感じる場」ともお伝えさせていただいておりました、その場にお集まりくださいまして、ありがとうございました。心からお礼を申し上げます。また斑目力曠大僧正におかれましては、イスラエルの準備などが重なっている時期に無理をおしてのお願いをお引き受け下さり、感謝の念に堪えません。

当日、行き届かない点が多いことを反省し、お詫び申し上げます。しかしながら、あの場を設けさせていただいたことで、大変貴重なことが掴めてきたという実感がありますので、お礼とともに記させていただきます。

① 自灯明、② 托鉢、③ 瞑想。「毎朝 3分でもいいと思うんですね」とおっしゃられたその瞑想。この3つを、当面、斑目大僧正の教えの鍵として身体の中にいれてまいりたいと思いました。



自灯明から球体経営へ

① 自灯明。お父君からの教え。宇宙のなかでの自立。自らを灯とし帰依として、他を帰依とすべからず。そして、神仏には願い事をしない。感謝。宗教が違って近くをとおりかかったら、手を合わせて感謝。この感覚と申しますか理解あるいは哲学が、球体経営に繋がる。すべての人が宇宙の中心にあって自立している。すると社会も経営も球体に繋がる。

「そんなことを言ったら卒業はさせないよ」といわれ、500年前の資料まであたって資料を基礎に書き上げた卒論のテーマこそが、球体経営。それがさらなる「好奇心」と「足でかせぐ」感覚からインド仏跡調査隊への構想につながっていく。

その構想は、挫折しました。あとで考えると、研究はいいから実現しろと宇宙から言われたのかもしれない。挫折して山を下りることになった。山を下りて、ネミックラムダとして、個人個人が宇宙の中心、国も宗教も越えて、球体経営。これが、お金の力でなく、ローマ以来の契約のような制度仕組みでなく、人の魂を根幹において、グローバル経営を実現しようとして、実現してしまった。

托鉢の体験と精神から「なんでもできる」へ

② 托鉢。斑目様はいろんなところで何度も「簡単なんですネ」とおっしゃった。簡単と思うか、簡単と思えないか。日産の社長にかけあって、インド仏跡調査隊のために自動車を出していただく。はじめての営業の経験でも、それを托鉢のようにとらえて、記録やぶりの成果を上げる。成績がでなくなる、つまり挫折したらまた托鉢に戻りやり直す。ごくシンプルにそのときそのときの営業の鍵は掴んでおられてそこはきちんと対応する（論理的なマーケティングですね）。

手許に、斑目様とマハティール首相の写真があります。斑目様がのちにマレーシア工場を立ち上げ、さらにイスラエル工場を買収したあとで、イスラエル＝マレーシア間の行き来ができず困ったらしい。そのとき、3度首相とお話しされたらしいのですが、それがどういう意味を持っているのか。というと、本質的には「自灯明＝球体経営」というイメージと「托鉢の体験からつかんでいること」からいくと、「簡単ですよ」となる。だから、偉い人とお会いしたことに価値があるのではない、政治家との交渉力に目を奪われるのではない、その先に、宇宙の中での経営のあり方のイメージが先あって、さらに托鉢以来の行動力がある。きっとこのことが大切で、私たち誰もが見習える、見習いたい、そういうことなのではないかと思いました。



ひらめきと瞑想

③ 瞑想。この講演会は「はじめに夢ありき」と題させていただきました。ひらめき、共振周波数、共鳴共振のことを斑目様がおっしゃっていることも伺いました。けれども、宇宙にはビッグバン以来の様々なエネルギーが飛び交っていて、それを私たちの意識の深い部分、第八阿羅耶識が、アーカイブのように拾って蓄積している。そのいわばノイズを越えて第九庵摩羅識に到達したい。瞑想。

冒頭、斑目様が、なぜイスラエルなのか、というお話しからスタートし、色即是空、空即是色。Something new from chaos and nebula. Somehitng new from the truoblesome and sufferings. から自己紹介に入られました。その前に、皆様ご到着されていたときに、この6月6日にイスラエルはネタニア市に完成する、プラネタリウムと瞑想センターのオープニング用の映像を流させていただいておりました。その中に、Meditate on Yourself and the Universe. Rikihiro Madarame というスライドがありました。アインシュタインが、イマジネーションを説き、イスラエルの初代首相、ダヴィッド・ベン＝グリオンが、現実主義者であるためには（あるいは現実で力を発揮できるためには）、奇跡を信じることができなければならない、と説く、そのあとのスライドです。

斑目様は、瞑想の大切さを説き、Wishing Young Leaders to Emerge!と続きます。ここに、斑目様の、すべての人々が最大限に人生を発揮していきていかれることへの願いと、鍵への教えが入っているのだと、ようやく私は理解したのでした。

実は、私はあのスライドについては、大変失礼ながら、多くの人が瞑想のことはおっしゃるのだから、アインシュタインとベン＝グリオン首相に匹敵する、斑目様らしい教えとしては、はじめに夢ありきと、無一物中無尽蔵がいいのではないか、そのあとに瞑想のスライドを入れられたらどうでしょうかというようなコメントを差し上げ、英文まで作ってお送りしたのですね。でも5月17日の場のあとの今はわかりかけてきました、瞑想こそを中心におく感覚が。斑目様の人生の中で、安らぎとひらめきを与えてくれる場だった。それを分かち合いたい。

自灯明の哲学。托鉢の実践と精神。瞑想。ひらめき。夢。

5月17日の場は、大量の情報とさまざまなエネルギーが流れ交錯する場となり、皆様方も斑目力曠大僧正も、たいへんお疲れになったことと思います。けれども、あの場におられた一人ひとりを起点としてなにか面白い展開がこの宇宙の中でまた始まる、1つのビッグバンでもあったのではないかと感じています。祈るばかりです。



死生観と、この人生を最大限に、楽しく生きる

④ 4番目につけ加えるとなると、当日流れておりましたのは、最大限に人生を楽しむ、というエネルギー。Somethig new from the troublesome and the sufferings. いろいろある。本当に大変である。けれどもそれでも斑目様の体中から発散されているエネルギーには、ほっとするところとか、もっともっと人生を楽しんでいけるというような気になるところがある。いま一段階、夢を描き、あるいは感じとり、夢を実現していく。やってみよう… 死生観。人生を最大限に楽しむ。生きたお経を聞かせていただいた思いです。心から斑目力曠大僧正に感謝申し上げます。またあの場をご一緒に作って下さるために、お忙しい中をご参集くださいました皆々様に、あらためて心からお礼を申し上げさせていただきます。

事務局を引き受けて下さった河北理事長をはじめ日本女子大学院の皆様、当インスパークの川口さんにも心からの感謝申し上げます。

心からのお礼を申し上げながら、みなさまのご安寧とご発展を切にお祈りしつつ、筆を置かせていただきます。

小川政信
インスパーク株式会社

PS. なお、当日流させていただいた映像は、www.hirameki.tv または youtubeから観ることができます。ただ短いバージョンをお作りしたので、いろいろと合わせて御案内はまたさせていただきたく存じています。さらに使用したスライドもダウンロードできるようにいたしたく思います。撮影された録画の共有も、斑目様とご相談の上、行って参りたいと思います。

それから、斑目様は講演の終わりの方で、ANDの回路、ORの回路、NAND、NORの回路の話しをされました。斑目様はANDが強い。縁を自ら切らない。GNNともおっしゃられました。以前こうもおっしゃいました。仏教僧ですからね、どうしても基本は人を信じてしまう。いい方をご覧になる。そういうANDの生き方は、縁とひらめきで無から小宇宙を創り出した。一方でまた、大変な *troublesome and sufferings, something painful* も惹きつけた、といえるかもしれない。

斑目様は数多くの失敗もしましたといろんなところでおっしゃる。けれども、20年近く前、こうもおっしゃられたことがあります。「経営に関しては、何も間違ったことをしなかった。ただ資本政策だけは、失敗した」とも。ネミックラムダを 49%にしなくてもよかったかもしれない。けれども、ネミックラムダが誕生するときに、あそこで 49%にするような世界感、宇宙観、生き方、エネルギーが、1つの小宇宙を創り出したのではないかと思います。私にはわかりません。

さらに私の疑問も好奇心も続きます。夢とは感じとるものなのか、描くものなのか？ 神仏には願いごとをするのではない、感謝をするのだ。こういうことの奥にも人生と宇宙の奥義があるように感じています。

録画してくださったカメラマンの林様は、もう 2～3回やったら合わせてすごくいい内容のものに仕上げられそうです、とおっしゃってくださいました。とんでもない、無理。と最初は思いましたが、一晩寝て朝起きてみると、あらためて、スライドを作ってスライド内容と写真・映像で解説するところと、斑目力曠大僧正に語っていただくところを分ける。テーマを7くらいとか、10とか、そういうとことで自在に語っていただく。その語りに流れる内容もさることながらエネルギーを録画録音しておく。ということができたら、より万人が人生と経営の奥義、とことさら難しくするわけではありませんが、自分たち自身の初心を思い起こしたり、向上心が呼び起こされたり、勇猛心が共鳴共振したりするものができるのではないかと思います。またご協力などよろしくお願い申し上げます。

感謝です。



昭和45年 創業記念式典 斑目社長